＜東文研・ASNET共催セミナー＞

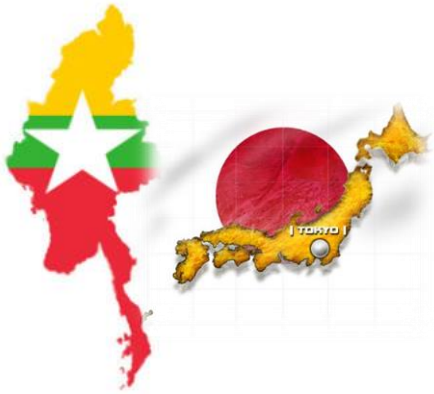
日本の対ミャンマー政府開発援助

1988年以降の政策変容について

The Changing Nature of Japan's ODA Policy towards Myanmar since 1988

日本とミャンマーの関係は、しばしば「特別な関係」や「歴史的に友好な関係」と言われる。それは1954年に平和条約を締結して以来のものである。1988年以前、日本はミャンマーにとって主要な開発援助国であり、両国の関係は友好的であった。1988年にミャンマーの国内政治に変化があると、日本の対ミャンマー政府開発援助を含む両国の関係性にも変化が生じた。また2010年の選挙の後、国内政治が変化すると両国の関係性も新たなものとなった。とくに根本的な変化がもたらされたのは、2011年3月にテイン・セイン 大統領率いる民主的な政府が発足し、改革路線が取られた後のことである。

これ以降、ミャンマーと西欧民主主義諸国の関係や、日本との関係が改善され、結果として、日本の対ミャンマー援助も増加したのであった。本報告では、日本の援助政策の変化について、1988年以降の状況を辿りつつ考察を行う。



◆ **日　時：　2015年 1月 29日（木）17:00-18:00**

◆ **報告者：　オー・ソウ・サン氏（東京大学 東洋文化研究所 訪問研究員）**

◆ **コメント：　池本幸生氏（東京大学 東洋文化研究所 教授）**

◆ **会　場：　東京大学　本郷キャンパス内　東洋文化研究所　1F ロビー**

※ 報告は英語で行われます。

東文研・ASNET共催セミナー

東洋文化研究所とASNETは毎週木曜日の夕方にセミナーを開催しています。どなたでもご参加頂けます。皆様のお越しをお待ちしております。 詳しくはこちら: http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/

東大ASNET　検索

東京大学
日本・アジアに関する教育研究ネットワーク
Network for Education and Research on Asia
ASNET